フジ

地域の拠点として機能強化「お客様参加」の取組みも

▲山口普社長

中国・四国地方に101店舗を展開。9月には初めて、イオンが運営するSCに核店舗となるSM「フジ四国中央店」を出店した。山口普社長は「NSCという業態のポテンシャルを改めて感じた」と強調する。店舗だけでなく、町に点在している行政サービスなどを集約することができれば利便性は格段に高まる。「特に地方都市において、その役割は大きい」。同様に地方でのニーズが強い、移動スーパーなどのノンストアリテイル事業にも力を入れる。7月から愛媛県・広島県に加え、山口県でサービスを開始した。「点から線、線から面へとスピードをもって取り組んでいる。面の拡大の次は密度と効率を高める。四国において圧倒的な1番でありたい」。24年のマックスバリュ西日本との経営統合について「商品戦略の柱の1つは地元商品にある」という。「随分と大きな規模になるので、産地や地場メーカーともっと積極的な話ができる。お客様に喜ばれるような商品づくりにチャレンジしたい。それがわれわれの武器になる」。

ESG活動に関しては店頭でのリサイクルのほか、今年4月から一部店舗で常設のフードドライブコーナーの設置を始めた。「太陽光発電システムなどは自社でしっかり進めていくべきもの。一方で、お客様参加型の環境問題への取組みも重要。われわれは、毎日お客様が来られる店舗を持っており、小売業ならではの環境問題への取組みを実現したい。そのことが地域コミュニティの拠点としての機能強化にもつながる」。

富士カプセル

海外市場を視野に グループ企業で自社製品も

▶加藤至康副社長

健康食品、医薬品等の受託メーカーとして健食業界に加え一般食品業界でも高い評価をいただいてきた。当社は国内初のソフトカプセルメーカーでもあり、用途や配合する素材の機能、特徴にあわせたカプセル提案ができる。たとえば崩壊遅延防止ができる「F-CAPS」、「腸溶性カプセル」「口腔内速放性カプセル」、植物性の「グリーンキャップ」や一般食品寄りの「グミ食感カプセル」など幅広いオリジナルソフトカプセルの品揃えが特徴だといえます。

中長期的には、海外市場への進出も計画しています。コロナ禍で一時的に中断しましたが、11月には米国ラスベガスで開催された「IMEX America2021」にも出展しました。米国、欧米、アジア各地でビーガンやベジタリアン、宗教上の理由によって植物性由来カプセルのニーズが高まっています。

また、グループ会社「ビオメディクス」では「人々の健康」をテーマに研究開発を進め、ジェネリック医療用医薬品、OTC医薬品、健康食品を提供してきましたが、今後OEMだけでなく自社商品の販売にも取り組んでいきます。

当社の一番のスローガンは「新しい技術と高度な品質を恒久的に提供し信頼される企業となること」。引き続き医薬品と同レベルの品質管理を徹底し、つねに最高品質の製品を提供できるよう、継続的な体制強化を図っていきます。